カルメット氏BCGヲ以テスル動物通過實驗

大阪醫科大學肺療科(主任今村教授)

醫學士 伊藤種 次

郞

緒言

脾脫疽菌!「ワクチン」ト同様ニ固定毒ナリト説明セリ。 テBCG株ヲ創製シタリ之レガ毒力ニ關シテ同氏等ハ殆ンド無毒性ト稱シタル程毒力微弱ニシテ然カモ此性質ハ固定的 Calmette 及ビ Guérin ハ强毒性ノ牛型結核菌株ヲ十三年間牛膽汁加「グリセリン」馬鈴薯培養基ニ二百三十代連續培養シ ニシテ感受性アル動物體ニ移植通過ヲ試ムルモ毫モ其毒力ハ増進スル コトナシト云フ R. Kraus ハ之レヲ狂犬病毒或ハ

可能性アリト説クモ 對ヲ表明スルモノニ Chiari, Nobel u. Solé 等ノ諸家アリ、Löwenstein ハ衰弱セル個體内ニ於テハ BCGハ毒力增進ノ Korschun, B. Lange u. Ludtin, Coulaud, Suarez. Schrötter, L. Lange u. Clanberg 等諸家ノ追試贊成スル所ニシテ稍~反 B C G 氏ガ毒力微弱ニシテ其病原性ヲ失ヘルコトハ A. Ascoli, R. Kraus, Gerlach, Tsekhnovitzer, Selter u. Blumenberg, L. Lange 等ハ實驗的ニ此可能性ヲ否定セリ。

動物通過ニョリテBCGノ毒力ヲ增進セシムベキ實驗ハ多クハ陰性ノ成績ヲ報告セラル、 節ヲ他動物ニ移植シタレド Tsekhnovitzer, Ascoli 等ハ皆移植ノ陰性ナルヲ説ケリ、Calmette ハー瓦以上ノ大量ヲ動物ニ皮下接種シ茲ニ生ジタル結 モ陽性成績ヲ得ザリキ、 Gerlach 動物通過ノ實驗ヲナシ二十例ノ內七例ガ移植 就中 R. Kraus, Schunkmann, ニ成效シタ

著 伊藤=カルメット氏BCGヲ以テスル動物通過實験

原

新 が鮮ナル 即チ 移植動物ニ於テ種々ノ内臓内ニBCGヲ含有スル結節ヲ生ジタリト云フ。 病竈ヲ移植シタル 時ニ限ルト云フ、 然シ之レハ第二代目 ノ移植ニ 成效シタル 而シテ弦ニ成效シタル場合ハ極メテ Æ ノニ シテ代ヲ重モテ移植シ得タ

w

ニアラズ。

經 7 Korschun ハBCGガ動物通過ニョリテ毒力增進!可能ヲ想像セルモ實驗的ニ之レヲ證明シ得ズ、L. Lange 等!報告 3 ロタル 證明シ得ザリキ、 バ移植實驗ニ於テ唯一例ノミ 大網ノ 膿瘍ヨリ動物移植ヲ試ミタルモ成績陰性ナルヲ報告セリ。 然カモ此臟器ヲ更ニ移植セルニ成績陰性ナリキト云フ、 僅カニ鼠蹊腺ノ腫脹ト三倍大ニ肥大セル脾臓ニ於テ粟粒性病竈ヲ見タレド 藤岡ハBCGヲ腹腔内ニ接種シテ七ケ月ヲ ・モ抗酸 性菌

シテ六代迄モ完全ニ移植シ得タリト云フ。 ハ家兎ノ角膜ニBCGヲ接種シテ膿瘍ヲ作ラシメ此膿汁ヲ他動物 角膜ニ移植シテ同様ノ 膿瘍ヲ作 リ

斯ク

菌株ガ果タシテ眞ノBCGナリャ否ヤニツイテ議論サへ生ズルニ至レリ。 内ニ接種シ二週間後此睾丸ヲ取リ出シ、 Ϋ́ 結核ヲ發生セルコトヲ報告セリ、 A. Petroff 等ハBCGノ種類ノ内特ニ毒力强盛ナル菌株アリト稱シ(同氏等ノ所謂第二號BCG)此菌株ヲ海猽 此成績ハ他 他動物ノ睾丸ニ移植ス ノ諸學者 ノ實驗成績ト餘リニ大ナル差違アリ、 斯クノ如ク六代迄モ通過シ得テ然カモ其内三代ハ全身性 サレ バ茲ニ用ヒラレタル

BCGノ腹腔内接種ヲ行ヒ接種後一ケ月ヲ經テ其肝臓 余ハBCGヲ以テスル動物通過ノ實驗ヲ次ノ如ク施行セリ卽チ第一實驗ニ於テハBCGヲ海猽ノ セ ク第二實驗ニ於テーケ月ノモ モ ノ接種後二ヶ月ヲ經テ其肝臟及ビ脾臟ヲ他動物ニ接種シテ動物通過ノ可能ヲ實驗セリ、 y, 旣ニ述ベタル如ク Gerlach ハ移植實驗ニハ成ル可ク新鮮ナル病竈ヲ用フベキ ノヲ以テ移植實驗ヲ試ミタ 脾臟竝ビニ大網ヲ移植シ殊ニ大網ヲ以テ jν 所以ナリト ゝ コトヲ慫憊セル シテ動物通過ヲナシ得 次ニ第二實驗ニ於テハ 静脈內及ビ腹腔內ニ接 が故

ザリキ。 (Brauer's Beitr. 69 Band 2. Heft 1918) シテ家兎角膜ヲ以テBCGノ移植可能 ナ リ ŀ ス jν Kirchner ノ方法ヲ追試實驗シタ レ ۲, Æ 好成績ヲ 得 能

斯

種

第一實驗

海猽ハ三百瓦以上四百五十瓦迄ノ雄性ノモノヲ選ビ先ヴ「ツベルクリン」皮內反應ヲ檢シ(表中R反應ト記ス)其陰性ナル ヲ確メテ後使用セリ。

本實驗ニ於テハ先ヅ第一代トシテ海猽四頭ヲ用ヒBCG五瓩、十瓩、二十瓩ヲ生理的食鹽水ヲ用ヒテ乳劑トナシ三頭ニ 靜脈內、 一頭ハ腹腔内ニ接種セリ、 而シテニケ月後動物ヲ屠殺解剖シ、 脾臓及ビ肝臓ヲ無菌的ニ切リ 取ル、

第二代ニ於テハ此牌臟及ビ肝臟各均○•一瓦ヲ乳劑トナシ健康海猽十一頭ノ皮下ニ接種ス、其皮下接種ヲ選ビタ ハ動物ノ生存中外見ヨリシテ感染有無ヲ察シ得ベシト考ヘタルニヨル、動物ハ三ヶ月後屠殺解剖シ變化著明ナル 脾臓及ビ肝臓ヲ切リ取ル。 動物 ıν 理 3 由

檢セリ。 次ニ第三代ニ於テハ此脾臓及ビ肝臓ヲ前同様ノ方法ニヨリ健康海猽八頭ノ皮下ニ接種シ三ケ月後屠殺解剖シテ其變化ヲ

實驗成績ヲ表記スレバ次ノ如シ。

表中(十)ハ肉眼的及ビ顯微鏡的ニ結核變化著明ナルモノ(土)ハ稍;疑ハシキ變化アルモノ(一)ハ全然變化ナキモノトス。

第一表 第一實驗第一代 靜脈內接種及腹腔內接種二ヶ月後屠殺解剖

四	=	=		悉號	海猽
同 十 瓱腹腔內	同 二十 延靜脈內	同 十 廷靜脈內	BCG五延靜脈內	(B 主 財
_	_	_	_	初	R 反
++	++	++	+	終	應
三七〇	1100	===0	三五	初	體重
四五〇	三五〇	三五〇		終	気
+	+	+	_	肺臟	
_	_	_	_	肝臓	內
_	_		_	脾	
아닌	O.+	야 난	· 四	同重量	臌
_	_	±	-	膝右 腺	
_	_	_	_	膝左 腺	
_	+	_		腋右 腺	淋
_	+	_	_	腋 左 腺	
_	_	_	_	頭腺	巴
±	+	+	_	膜間	
_	_		_	腺肝 門 # 年	腺
_	_			枝氣腺管	
_	_	_		脱版	-
<u> </u>	-	_	_	骨後 腺胸	

第二表 第一實驗第二代 皮下接種三ヶ月後屠殺解剖

著 伊藤=カルメット氏BCGヲ以テスル動物通過實驗

原

原 著 伊藤=カルメット氏BCGヲ以テスル動物通過實驗

一 九	一八八	七	一六	番號	海猽		_ .fi.	四四	=	=		0	九	八	七	六	五	· 雅 號	海須	
同	十號牌臟皮下	同	十號肝臟皮下	į	生 射 材 料	第三表 第	同	间	四號牌臟皮下	三號牌職皮下	三號肝臟皮下	二號肝廢皮下	同 上	二號牌職皮下	同 上	一號牌職皮下	一號肝臟皮下	ţ	注 分 材 *	
_	_	_	_	一ヶ月	R 反	實際	_	_	_	_	-	+	_	_	_	_	-	一ヶ月	R	
_	_	_	±	三ヶ月	應	實驗第三代		_	_	_	+	+	_	_	_	±	-	月三ヶ月	反應	
三六〇	三五〇	三五〇	르성이	ķЛ	體重	代皮下	三六〇	三八〇	三五〇	1110	三五	三元〇	五〇	ヨボロ	0 1 11	:100	<u>=</u> <u>=</u>	初	體重	
五三〇	×00	五二五五	五六〇	終	Ā	-接種三ヶ月後屠殺解剖	五八〇	六 二 〇	fi. 七〇	四 ()		11i.	四八〇	五. 一 〇		国 〇〇	四二〇	終	Ŕ	
_	_	_	_	肺臓		月	_	±	_	_	+	+	_	_	_	_	_) <u>]</u>	市	
_	_	_	_	肝臓		屠	_	_	_	_	±	_	_	_	_	_	_	,);	干炭	
_	_	_	_	H	政 卑 弘	解剖	_	_	_		+	+	_	_	_			A H	卑级	
O·七	〇 五	〇·四	〇 六	重量	同		○ 五	٠ ئ	〇·七	. 〇 五	O.+:	O.七	〇 五	○ <u>₹</u>	〇 六	〇·四	〇 五	f	司重	
	_	_	_	膝 腺	行		_	_	_	_	+	±	_	_	_	_	_	際腺	冇	
_	_	_	_	膝腺	Æ.		_	-	_	_	_	_	_	_	_	_	_	上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	左	
_	_	_	_	腋腺	有			_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	腋腺	Ŧī	
_	_	_	_	腋腺	7r.			_	_	_	_	_	_		_	_	_	腋腺	7 i.	
_	_	_	_	3	領 泉		_	_	_	_	±	_	_	_	_	_	_	- 4	 泉	
_	_	_	_	膜腺	腸間			_	_	_	_	_	_		_	_	_	膜腺	腸間	
_	_	_	_	腺	肝門		_	-	_	_	_	_	_	_	_	_	_	腺	肝門	
_		_	_	枝腺	氣管		-	_	_		±	+	_	_	_	_	_	枝腺	氣管	
_	_	_	_	膜腺	後腹		_	_	_	_		_	_	_		_	-	脱腺	後腹	
_	_	_	_	骨腺	後胸			_	_	_	_	_		_	_	_	_	骨腺	後胸	

===	===	=	10
同	十一號脾臟皮下	同	十一號肝臟皮下
_	_	_	_
±	_	±	_
三九〇	国 〇〇	11110	三七〇
五八〇	五二〇	五〇〇	六三〇
	_	_	
-	_	-	-
_	_	_	_
〇 <u>五</u>	〇 五	〇·四	〇 五
_	_	-	
_	_	-	_
-	_	-	_
_	_	-	_
_	_	-	_
_	-	-	_
_	_	_	_
-	_	_	_
_	_	_	_
_	_	_	_

BCG五瓱ヲ靜脈內接種セル海猽(一號)ニ於テハ內臟及ビ淋巴腺ニ殆ンド變化ヲ認メズ、之レヨリ脾臟又ハ肝臟 六、七號)ニ於テモ皆解剖的變化ナシ。

皮下接種セルモノ(五、

殊二十號二於ラ肺臓、 二、BCG十瓱ヲ靜脈內接種セルモノ(二號)ニ於テハ肺臟及ビ腸間膜腺ニ結核變化ヲ認ム顯微鏡的ニハ類上皮細胞結節 ニシテチール染色ニョリ極メテ僅カニ抗酸性菌ヲ認ム、之レヨリ脾臓又ハ肝臓ヲ皮下接種セルモノ(八、九、十號)ノ内 一九號)ニ於テハ何レモ全ク變化ヲ見ズ。 脾臓、氣管枝腺ニ結節ヲ見ル、之レヨリ脾臓又ハ肝臓ヲ第三代目ニ移植セルモノ(一六、一七、一

三、 (一一、一二號)ニ於テ殊ニ十一號ハ肺臓、 BCG二十瓱ヲ靜脈內接種セルモノ(三號)ニ於テハ其所見大約上記二號ニ似タリ 之 レヲ 第二代目ニ移植セルモノ 脾臟、 膝襞腺ニ結核性變化アリ、更ニ第三代ニ移植セルモノ(二〇、二一、二

四 BCG二十瓩ヲ腹腔内接種セルモノ(四號)ニ於テハ肺臓ニ 一五號)ニ於テハ殆ンド變化ヲ見ズ。 結節アリ、 之レヨリ脾臓ヲ皮下ニ接種セルモノ(一三、

二、二三號)ニ於テハ全然變化ヲ呈セズ。

第一 實驗小括

得ズ、之レニョリテ見ルニBCGハ第二代目ニ於テハ時トシテ動物通過ヲナシ得ルコトヲ知リ得ベシ、一○號及ビー一號 皮内反應陽性ニシテ所屬淋巴腺ハ腫大シ、 第一代ニ於テハ二ヶ月後ノ「ツベルクリン」皮内反應ハ凡ヲ强陽性ナリ、 肺臓及ビ脾臓ニ類上皮細胞結節アリ、 第二代ニ於テ一〇及ビー一號ハ「ツベルク チール染色ヲナスモ抗酸性菌ヲ證明シ

原 伊藤=カルメット氏BCGヲ以テスル動物通過實験

Æ 肝臓ヲ接種 t: IV ŧ ナル コトハ注目ニ値ス。

第三代目ニ於テハ「ツベルクリン」反應ニ於テ多少疑 物通過ヲナシ得ズト考フルヲ得ベシ。 ハシキ モ , ァ ıν モ解剖的所見ハ全然陰性ナリ、 故ニ第三代目 ハ動

(第一實驗ノ成績ハ曩キニ第六囘日本結核病學會總會ニ於テ其要旨ヲ報告シタリ)

實 驗

第一代ニ於テハ六頭ノ海猽ヲ用ヒBCG○・一瓩、 本實驗ニ於テハ第一實驗ニ比シ早期ニ屠殺解剖セリ而シテ移植ニハ脾臓及ビ肝臓ノ外大網ヲ用ヒタリ。

一厩

五瓩、

十瓩、

二十瓩ヲ乳劑トナシ腹腔内ニ接種ス

丽 シ テーケ

月後屠殺解剖シ初メノ五頭ヨリハ脾臟及ビ肝臟ヲ取リ出ス、最後ノ一頭ヨリハ大網ヲ取リ出ス。

第二代ニ於テハ脾臓、

タル海猽二十二頭ナリ、 リ出ス。 肝臓又ハ大網ノ各〇•一瓦ヲ乳劑トナシ海獏一頭ニ腹腔内接種シ二頭宛ヲ一組トナス、之レニ用 一ヶ月後屠殺各組ヨリー頭宛脾臓及肝臓ヲ取リ出シ先ニ大網ヲ接種シタ ıν Æ , ョリハ大網ヲ取

第三代ニ於テハ此脾臟、 肝臓若シクハ大網ヲ前同様ノ方法ニヨリ健康海猽二十二頭ニ接種シーケ月後屠殺解剖

實驗成績ヲ表記ス レ ٧,٧ 次ノ如シ。

第四表 第二實驗第一代 腹腔內接種一ヶ月後屠殺解剖

五六	五五五	番號	動 物					
[ri]	内B	进						
	〇C 一版	3	村分					
	毛腹 延腔	ļ	链					
同	三十日	数	居殺迄					
_	_	始	R 反					
±	±	終	應					
三 八 〇		始	體重					
四七〇		終	五(五)					
腺二三ヲ見ル大綱ニ半米粒大ニ腫脹セル内臓及ビ淋巴腺變化ナシ、	化ヲ認メズ 内臟及ビ淋巴腺ニ肉眼的變	肉眼的剖檢所見						
認ふニシリスの一類には、一点の一類には、一点の一類には、一点の一点を表して、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいで	ナシ 肺臓、肝臓及ビ脾臓ニ光變 -	从	y 覧					
大綱ニ少數ノ菌ヲ見ル	謝ヲ見ズ	海染色所見						

原 著 伊藤=カルメット氏BCGヲ以テスル動物通過實験

七〇	六	· 六	六六	六	六三	六	六〇	番號	動 物
	九五六號肝臟	同	六 五六號牌廢	同	三 五	同	□ 五五號牌騣	i i	上村オ
[1]	同	同	同	同	同	同	三十月	日数	屠殺迄
-		_	_	_	_	_	_	始	R 反
_	_		_	_	_	_	_	終	態
三九〇	三四〇	五〇	11100	M OO	= :: O		= 0	始	體重
	四三〇	三九〇	三七〇	五〇	四 ○ ○	<u></u>	三七〇	終	ñ
媵○・五瓦 内臓及淋巴腺變化ナシ、脾		職○・六瓦内職及淋巴腺著變ナシ、脾	腸間膜腺少シク腫大内臓著變ナシ脾臓○・五瓦、	○・五瓦	五、淋巴腺變化ナシ 內臟著變ナシ、脾 臓 ○•六	左右腋腺稍~腫大 内臓著變ナシ´脾臓〇•七瓦	○・六瓦	日 百 音 木 月	刘艮约到颁沂 礼
著變ナッ	脾腹ニ浸潤部アリ	同	[ii]	同	同	同	著變ナシ	7 金 戶	真数竞厅儿
[ri]	[ri]	同	[ñ]	同	同	同	菌ナシ	的 多 包 历 少	جي/ وي ابــ

第五表 第二實驗第二代 腹腔內接種一ヶ月後屠殺解剖

五〇	七四	七三	七二
同	同	同	同
==	=	+	£ i.
一年	一一	瓱	瓱
同	同	同	同
_	_	_	_
+	+	+	+
三九	Ξ	픙	Ξ
Ő	<u> </u>	<u> </u>	0
四	四	三五	三去
Ō	ō	0	<u> </u>
豆四肺二五臟	腫大、大網鉛筆 癒著ス脾臓二・〇 肺臓變化ナシ、	ニ化石 弱ナ肺	網一肺ニュウ
倍が	一ス變	豆シニ	
腫網變	網臓ナ	腫脾節	五月 園經
版 八化	第一、	脹 版 一	腫三化脹を
趣状シ	大大照	個ニア	アルシ
リリ形紋	ー、臓 腫肝の 脹門腸	アエリナ大臓	ア脾リ臓
- 斑・	腺ト	網變	大ハ
ナ心所 ル <mark></mark> 関見	同肝肺	リ網肺 成ハ臟	
死前セニ	著牌 變臟	ル主ニ ト不	者胞胞 變集間 ナ関質
ル同 部ジ	ナニシ小	ッ整 テ形	シヲニ
分かった	人結	類と	ル潤
り約	網節所列	類結と	肝リ
膿ニ瘍ハ	見見前ル	細ア胞リ	服類 上
1中	= '		牌皮
多大数網	同敷脾	大網	大網
ノ組 岗織	菌結 ヲ節	= 多	硬結
ヲ及 見ビ	見内	敷	部
ル膿汁	大極 網メ	崩ヲ	関ヲ
中	前テ	見	見
=	二少	ル	ル

八二五

原 著 伊藤=カルメット氏BCGヲ以テスル動物通過實験

	_														
番動 號物		五三	五 二	一五五	一 四	 - =		一〇九	- - - - - - - - - - - - - -	10六	一〇五	1011	101	100	九九九
注射材料	A.A.	同	網五〇號大	同	七四號肝臟	同	七四號牌臟	同	七三號肝臟	同	七三號牌臟	同	七二號肝臟	同	七二號牌臟
日居 殺 數迄	第六表	同	同	同	三十日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三十日
始月	第二	_	_	-	_	-	_	_	_	-	_	-	-	_	_
	∄ — <u> </u>		_	_	_	_	_	_	_	_	_	-	_	_	_
始量	1 20	三九〇	11110	三五〇	四〇〇	三五〇	四 一 〇	=00		三国〇	四二〇	三六〇	四二〇		三六〇
終	1 42	四三〇	三九〇	三八〇	五 一 〇	三八〇	四五〇	三九〇	四八〇	BOO	五二〇		四三〇		四二〇
肉眼的剖檢所見		開スルモ膿瘍ヲ認メズ 五大網ニ小豆大腫脹アリ切 内臓者變ナ シ、脾臓○•八	切開スによって、	○・六五 職及淋巴腺並		五、鼠蹊腺少シク腫大 内臓著變 ナシ、脾臓○•八	○・五瓦	臘○•七瓦	○・六瓦 →・六瓦 ・六瓦 ・六瓦	腺變化ナシ、脾臓	○•七瓦	臓○•六瓦 臓の・六瓦	僅カニ睡	上 脱 勝 間 緩	僅カニ
顯 微 鏡 所 見		前ニ同ジ 内臓變化ヲ見ズ、大網所見	ハ類上皮細胞ヨリ成ル肺臓ニ少シク浸潤アリ大網	著變ナシ	肺臓所々ニ小浸潤部アリ	脾臓ニ浸潤アリ	同	同	同	著變ナシ	肺臓中央部ニ浸潤アリ	著變ナシ	肺臓ニ浸潤部アリ	同	同
菌染色所見		アリ 大網ニ極メテ僅少ノ菌	大網ニ僅少〃菌ヲ見ル	同	菌ナシ	同	同	同	ā	同	同	同	同	同	菌ナシ

七八 六〇號肝臟 同

同○・六

同

同

著變ナシ

四一○ 五○○ | 著變ナシ脾臟○•七

七五 六〇號牌臟 三十日

原 著 伊藤=カルメット氏BCGヲ以テスル動物運過實験

		,																	
五八	五七	三九	一三七	三五	1 == ==	= = =	一二九	一二七	一二六	- = =	1 11 1	110	一七	九六	九三	九〇	八七	八四	八 二
同	網五二號大	臓 一四號肝	臓 一四號脾	臓 一一 號肝	職一一一號牌	臓一○八號肝	臓 一○八號脾	臓 一○五號肝	臓 一〇五號牌	職 · 二號肝		九九號肝臟	九九號牌臟	六九號肝臟	六九號牌臟	六六號肝臟	六六號脾臟	六三號肝臟	六三號脾臟
同	同	间		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三十日
-	_	_	-	_	_	_	_	_	-	_	-	_	_	-	_	_	_	_	_
_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_		_	_	-	_	_	_
	三六〇	三六〇	O 1 Ei	11100	11110	三五〇	011111	三五〇	三六〇	11100	11110	= 0	1100	四二〇	型型 〇	回00	四三〇	三四〇	三五〇
四八〇	四10	三八〇	三国〇	三九〇	[교꾸이	图110	三六〇	包川〇	国国〇	图00	三五〇	三六〇	三五〇	五〇〇	五二〇	四八〇	四八〇	三七〇	三九〇
米綾ナン	ニナ 継シ	同	同	同	同	间	著變ナシ、	同	同	著變ナッ,	肝門腺變化	同	同	著變ナシ	兩膝襞腺質	腸間膜腺 機 養	著變ナシ	同	同
腫脹部アリー・脾臓(・七・	見べ・五	同〇六	同 〇 五	同〇八	同〇・六	同〇五	脾臟○・七	同〇七	同	n.	シク硬牌駿	同〇•六	同一八八	脾臓○・九	稍:肥大 ○·八	少シ硬ナシ、脾臓(脾臟○・五	同一二六	同○・互
大網	=										<u>;</u>					· 八			
皮細胞ナシートの関係の関係を関する	同	同	同	同	同	同	著變ナシ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	著變ナシ	同	同
同同	同、特	[13]	同	同	同	同	崩ナシ	[ii]	同	同	同	同	同	同	同	[ii]	- 菌 ナ シ	同	同
	二大網ニ菌ナシ				,							:							

更二六〇及ピ六三號ヨリ脾臟及ビ肝臟ヲ移植シタルモノ(七五、七八、八一、八四號)ニ於テ皆全然病變ヲ認メズ又 明セズ、此動物 B C G O 瓱ヲ腹腔内ニ接種セル海猽(五五號)ニ於テ ハ 内臓及ビ淋巴腺ニ蓍變ヲ認メズ、 ョリ脾臓又ハ肝臓ヲ移植 モ ノ(六○、六一、六三、六四號)皆解剖的病變ナク又菌ヲ證明シ チール染色ヲナス = 髜

菌ヲ證明セズ。

モ ヲ 類上皮細胞ョリ成ル而シテ菌染色ヲナスニ大網ノ類上皮細胞内ニ稍~多數ノ菌ヲ認ム、之レヨリ脾臟 腸壁ハ癒著ヲナセリ『顯微鏡的ニハ肺臓ニ於テ肺胞中隔部ニ浸潤アリ、 見ズ更ニ第三代ニ脾臟及ビ肝臟ヲ移植シタルモノ(八七、 部二三アリ顯微鏡檢査ニョリ脾臟竝ビニ大網ニ類上皮細胞ノ集團ヲ 認 ム 殊 ナス部分ナク菌所見モ陰性ナリトス、更ニ第三代目ニ移植セルモノ(一一七、一二○、一二一、一二三號)ニ於テ病變 歯所見モ共ニ陰性ナリ。 モノ(九九、 BCG五瓱ヲ腹腔内ニ接種セルモノ(七二號)ニ於テハ脾臓ハ腫大シ、大網ニハ豌豆大ノ腫脹部アリ脾臓、 BCG一•○瓩ヲ腹腔内接種セル海猽(五六號)ニ於テハ内臓及ビ淋巴腺ニ蓍變ヲ見ザレ ド モ大網ニ半米粒大 之レョリ脾臟及ビ肝臟ヲ移植セルモノ(六六、六七、六九、七○號)ニ於テハ解剖的ニ蓍變ヲ認メズ -00, 一○二、一○三號)ニ於テハ內臟ニ著變ナク、九九號ニ於テ大網稍~肥厚セルヲ見レド 九〇、九三、九六號)ニ於テハ病變モ菌染色モ共ニ陰性ナリ。 類上皮細胞集團ヲ見ル、大網ノ腫脹部モ 二大網ノ切片ニ於テ少數 吸びビ肝 ノ 抗酸性菌ヲ 組織 切片中菌 ŧ 臓ヲ移植 特二 主 大網 腫 硬結 及じ 眀 脹

四 テ菌染色ヲナスニ大網切片ニ於テ多數ノ抗酸性菌ヲ認ム、 一三一號) 腫 一○八、一○九號)ニ於テハ解剖的著變ナク叉菌ヲ證明セス更ニ第三代ニ移植セルモノ(一二六、一二七、一二九、 BCG十瓱ヲ腹腔内ニ接種セル海猽(七三號)ニ於テハ右肺表面ニ結節二三アリ。脾臟ハ稍ゝ腫大シ大網ニ 大セル部分二個アリ、 ニ於テモ同様ナリトス。 顯微鏡的ニハ肺臓ニハ不整形類上皮細胞集團所々ニアリ大網モ類上皮細胞集團ヨ 之レガ脾臓及ビ肝臓ヲ第二代ニ移植セルモ () () 五, リ成ル而 ハ腕 豆大

五、BCG二十瓱ヲ腹腔內接種セルモノ(七四號)ニ於テハ著明ナル脾腫アリ、肝門腺稍~ 肥大シ大網ハ鉛筆程ノ太サノ索

狀 號 潤 植 = セ セ ルモノ(一三三、 ニ於テハ其内一一二號ニ於テ鼠蹊部淋巴腺 極 n 腫 細胞 ーメテ 脹 セ 多數ノ菌ヲ認ム、 リ、 ハ主ト 丽 シテ類上皮細胞ナリ、 シテ大網及ビ肝臓 三五、 此動物· 一三七、 脾臓及ビ肝臓ヲ取リテ第二代ニ 腸表面ト癒著ヲナス顯微鏡的ニハ 一三九號)ニ於テハ何等ノ病變ヲモ見ザルナリ。 而シテ菌染色ヲナ ノ少シク腫 大セルヲ見ル スニ脾臓内ニ於テ極メテ少數ナレ 移植セルモノ 外著變ナシ菌染色モ陰性ナリ、 肺臓及ビ脾臓ニ 類上皮細胞結節ヲ見ル ۴ モ抗酸性菌 更ニ第三代ニ ラ認 四 大網ニ — 五 五 大網 浸

汁ヲ 開 於テ僅少ノ膿瘍形成ヲ見ル、 ス 五三號ノ二頭ノ海猽ニ腹腔内注射ヲナスニ二者トモ大網ニ豌豆大若シクハ小豆大ノ腫脹ヲ生ジ切 取り乳剤トナシー五七、 BCG二十瓩ヲ腹腔丙ニ バ膿汁ヲ出 l ダス 不而シテ 大綱切片及ビ膿汁内ニハ極メテ多數ノ抗酸性菌ヲ認メ得、 接種セル一五〇號海猽ニ於テハ所見ハ大約前記七四ニ似タリ、 而シテ大網ニ 五八號二頭ノ海猽ニ腹腔內注射ヲ 於テ僅少數ノ抗酸性菌ヲ認ム、 ナスニ 最早大網ニ蓍變ヲ生ゼス菌染色所見モ陰性 更ニ第三代目ニー五三號ョリ大網組織及ビ膿 此 大網組織 唯大網 開 及ビ 部膿瘍 膿汁ヲ一五二、 ıν 時 <u>—</u> 五 トナリ切 二號

トナ

實驗小 括

中五 第三 り。 ンド В 胞 CG接種第一代ニ於テハ多數ハ肺 一代目ニ於テハ凡テ殆ンド 故ニ第三代目動物通過ハ陰性成績ナリトス。 ヲ認メ僅少ナレド |頭ニ於テ大網ニ抗酸性菌ヲ認 病變ヲ 見ズ、 菌所見モ常ニ モ 抗 酸 病變ヲ認 性菌ヲ認メタリ、 陰性ナリ、 ム 臓 頭ノミハ脾臓 ニ結節ヲ生ジ少数ニ w 唯大網ヲ移植 毛 ノナリ 故ニ大網ヲ以テシテBCGノ第二代目動物通過ヲナ 内ニ僅カ 大綱ヲ注射 セ jν ハ 脾臟 第二代ノ --菌ヲ セ jν 證明 動物 結節ヲ見ル肝臓ニ變化アル モノニ於テ大網ノ腫脹ヲ見、 シタリ、 於テモ著變ヲ 第二代ニ於テ 生ゼ ズ、 ٧, Æ 肺 菌所見 顯微鏡的 鵩 少 シ 得ル シ、 脾 Æ 菌所見 臟及肝臟 凡 ŀ = テ ヲ ۸ر ·見ル、 類上皮 陰性 八六頭

緖 言 於テ述べ 原 タル如ク 蓍 0 Kirchner 家兎 角膜ヲ用ヒテ BCGノ 動物通過實驗 成效 セ v ヲ 報 セ リ、 В こCGヲ以テ

原

著

膜 ス ıν 動 В Č G 物繼代通過實驗二 約○・○○一瓩ヲ含メル 成效セリト 乳剤ヲ ・稱スル 注 射セ 同氏ノミナリ、 リ、 丽 シテ 毎週其成績ヲ觀察セ 余ハ此方法ニ倣ヒ先ヅ初メニ家兎三頭(一號二號三號)ノ角 jν 二六週間ヲ經過 ス ıν モ 何等ノ異狀ヲ

무 セ へ角膜 ハ 依然ト シテ健常透明ナリ。

少シ 瘍部益~著明ト 次デ第二週ニ 次二家兎二頭 7 トヲ 注 ク隆起 恢復 射シ 得ぜ タ テ全ク透明ニ還レ jν ル 至り黃色點狀部ハ擴大シテ膿瘍様ヲ呈ス、 7 (四號 以テ 稍、 ナ 第二週目ニ至リテ 膿瘍部全部ヲ 汚穢黄色ヲ呈シ血管ノ新生著明ト 一ケ月ニ於テ膿瘍部ヲ 五號)ノ角膜ニBCG約○•○一瓱ヲ含ム乳劑ヲ注射セリ。 僅 切り カ 出 = シ少 局 切 部 開 許 ニ薄キ白雲狀ノ不透明部ヲ生ジタレドモ膿瘍ヲ形成スルニ至ラズーケ月 ス 生理的食鹽水 ルニ少シク膿汁ヲ ・ナリ、 此部分ノ角膜表面ハ 其角膜中心ニ近キ部位ニ於テ鮮黃色ノ粟粒大點狀部ヲ生ズ ニテ磨 出セド シップ Æ シ之レヲ健康家兎二頭 多量ニ溢出セズ 僅カニ不透明白濁部ヲ 之 ν 週間日ニ 注射器ヲ用ヒ 生ズ 於テ角膜注 (六號、 第三週 テ吸ヒ上ゲ 七號)ノ角膜 分射局 - 至リ膿 部

作 開 第三囘目ニ **数量ハ極メテ少シ故ニ角膜内ニ於テ接種サレ** 實驗ニ於テ膿汁及ビ膿瘍部乳劑ノ塗抹標本ヲ作リ「チー リ家兎二頭(十號 Ŋ ۴ ハ家兎二頭 Æ 膿汁ハ少量ニシテ注射器ヲ以テ吸ヒ上グル程ノ量ヲ得ズ、 + (八號、 號) ノ角膜ニ注射シ 九號) BCG家兎角膜繼代通過ヲ追試シ得ザリ = 於テ前囘 タル タレドモ其成績ハ全ク前囘ニ ŀ BCGガ蕃殖セリト 同 , 處置ヲ行 ル」染色ヲ ٤ ナ 此 シ 度 止 信 テ 等 前 ズ 檢 ムヲ得ズ、 w ス シ 囘 ヲ jν ク 3 ・得ズ。 シテ陰性 y 抗 モ 叉前囘 酸性 早期卽 ナ 菌 'n, チ第三週ニ於テ膿瘍部ヲ ハ 確 如々膿瘍部全部 カ 第二回目及ビ第一 = 證 明 得 ジノ乳劑ヲ ۴ 三囘 Æ 目 刉 其

總 括

ノ實驗ヲ以テシテ

Kirchner

,

を詳 網 В Č G 於 を接種第 記 特異 述 セ 代ニ於ケル jν 病變ニシテ之レ ヲ /以テ弦 病變ニツイテ 唯 ハ主 病變 ŀ 概略 シ 旣 テ類上皮細胞 ロラ記載 ニ本誌第七卷第九號ニ於テ余ハ「BCG接種ニ スルニ止メタ ョリ成リ此 Ý, 細胞內二多數 特 注目スペキ變化ハ腹腔内接種 ノ抗酸性 一菌ヲ 3 IV 證 海猽ノ病理解 明シ 得 アルナリ、 ノ場合ニ 於テ大 腹腔內 題

中一 弱 ザ セ Æ = 他ノ 動 ラ 動物通過 ケ ١, jν 於テ接種 Æ 種 月 臓器ニ於テハ多少ノ病變ヲ生ズルト Æ ナ ケ月 間 タル ニョ レバ第一代目大網病竈中ニ於ケル 菌ハーケ月乃至二ケ月ノ ニ於テ接種菌ハ全然死滅セザ リ斯ク多數ノ菌ヲ證明シ得 後此 リテ毒力 BCGハ先ヅ大網 大網病竈ヲ第二代移 ヲ 増加シ或 ニョリテ吸收セラレ ハ 間ニ其毒力ヲ増スコト 動物體內二於テ增殖ヲ營ミ著シ iv 殖 Æ jν モ殆ンド ス 菌 コ jν 1 時移 ナル トヲ 初 知り得 植サレ メニ べ 菌ヲ證明シ 妓二 シ、 接種サ 此處二 タ 病變ヲ惹起シテ此腫脹部ヲ作リ接種菌 ベキモ第二代目大網變化ハ第一代目變化ニ 無ク ル動物ニ於テ叉特異 得ザルコト タル 而 吸收サレ カ Æ BCGヨリモ弱度ノモ ク菌數ヲ増 タル 部分或ハ全部死滅 ハBCGノ毒力増加 菌 (ノ大網變化ヲ生ズ ガ増殖 加 スル ス 如 ıν キハ全 ノタル Þ ガ或ハ菌繁殖ヲ否定スル jν 否ヤ ŧ 1 大部分ハ ク否定シ得ベシ、 1 ıν 疑 妶 比 ニ非ルカ、 3 と y スレバ遙カニ 考フレ 無 眀 此 ぶシ故ニ 言 處 少 抑 確 7 ŋ 更

ツ體内 ズ、 剖的變化殊ニ顯微鏡的所見ト菌染色所見トヲ併セ考フル時ハBCGハ少クト 然シナガラ結核菌 'n 說 組織切 Æ こかがっ ヤンベラン濾過器ヲ通過シ得ル極 ア 'n 片或ハ塗 叉結核 著 シキ蕃殖ヲナサヾ ハ組織内ニ於テハ結節内ト |抹標本ニ於テ普通 菌 チール 染色法ニョリテ證 ルコト 1 方法ヲ以テ菌染色ヲナ い認 メテ微小 雖菌 メ得 アベシト 證明ハ 明シ 1 Æ 得 ノニシテ 常二 信 ズ。 モ 困難ノモ 1 / 尙且ッ シ 得 外尚特異 ズト 接種 ノニシテ組織内ニ於テ結核菌 Æ 必ズシモ結核菌 ニヨリテ結核ヲ起シ得ル ノ形態アリテ普通染色法 毛 動物通過實驗二 存 3 在ヲ リテ毒力増進セズ。 否認シ得ザレ ŀ ニョリ證明 抗酸性ヲ失 說 アリ。 ス ・ドモ解 jν 故 ŋ 能

且

吾

至ラシ

以上ノ所見ョ リ シテ余 次ノ如ク總括 ス。

BCG腹腔 シ得ズ。 BCG静脈內接種海猽 內接種 海猽ニ於テ特異 | ノ脾臓又ハ肝臓ヲ移植シテ第二代 ノ病變ヲ呈セル 大網ヲ 移植 動 スル 物通過ヲナ 時第二代ニハ シ 得 動物通過ヲナシ得 = ŀ ア ν ١٠, ŧ レド 於テ Æ 第三代ニ至

家兎ノ角膜 テハ何等ノ病變ヲ生ゼ 本誌第七卷第九號余ノ論文「BCG」接種ニョ ニ於テBCGハ數代移植シ得 ル海猽ノ病理解剖」ノ ノ實驗報告アル æ 余 末尾ニ記載セルヲ以テ弦ニハ之レヲ省略ス 實驗ハ第二代ニ於テ既ニ 移植成績陰 丰

ズ、

從テ代ヲ重モテ動物通過ヲ

試

jν

7

トヲ得ズ。